

テーマ 18 決算の手続き（Ⅲ）

貸倒れの処理と貸倒引当金の見積りについて見ていきます。

① 貸倒れ

得意先に対する売掛金などの債権が、相手方の倒産などによって回収不能になることを貸倒れといいます。

貸倒れとなった金額は、貸倒損失勘定（費用の勘定）を用いて費用処理するとともに、貸倒れとなった売掛金などは回収できないので、その勘定の貸方に記入し、これを減少させます。

仕訳例 1

9月3日、得意先茨城商店が倒産し、同店に対する売掛金 150 円が貸倒れとなった。
（貸倒損失） 150 （売掛金） 150

② 貸倒引当金の見積り

1. 貸倒引当金とは

企業では売掛金などの貸倒れに備えて、あらかじめ準備しておく必要があります。これは外部の利害関係者に対して、危険な債権の存在を知らせることにもなります。このとき、貸し倒れに備えた準備額を貸倒引当金といいます。

(1) 設定の対象金額

貸倒引当金は、受取勘定や売掛金（売上債権）などの期末残高に設定します。

(2) 見積額の計算

期末の売掛金などの残高のうち、次期になって貸し倒れると予想される額があればこれを見積もります。

① 実績率

貸倒引当金は、過去の貸倒実績にもとづいて求められた実績率により見積計算します。

なお、試験では問題文に実績率（3%、5%など）が与えられているので、それを使って計算します。

② 見積額の計算式

$$\text{貸倒引当金の見積額} = \text{売上債権の期末残高} \times \text{実績率}$$

(3) 決算整理仕訳

見積額は、貸倒引当金繰入勘定（費用の勘定）の借方に記入するとともに貸倒引当金（資産のマイナス勘定）を設けて、その貸方に記入しておきます。

仕訳例 2

12月31日、決算において、売掛金期末残高 10,000 円に対し実績率法により 2%の貸倒を見積る。

（貸倒引当金繰入） 200 （貸倒引当金） 200

2. 貸倒引当金の残高がある場合の貸倒れ（その 1）

実際に貸倒れが発生したら、貸倒引当金勘定の借方に記入し、これを取り崩します。その場合、貸し倒れた金額よりも貸倒引当金の残高のほうが多いとき（貸倒金額 ≤ 貸倒引当金残高）は、貸倒相当額に貸倒引当金を取り崩して充当します。

仕訳例 3

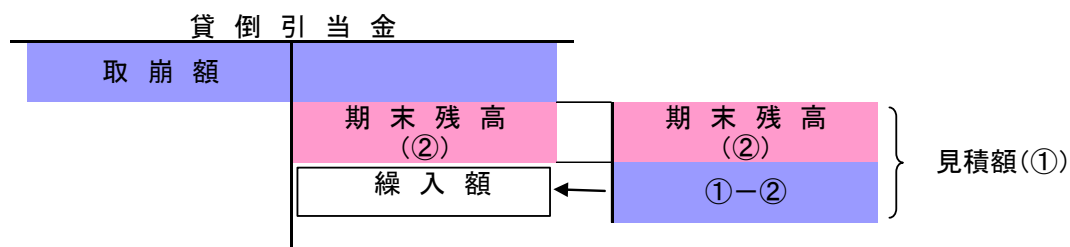
3月2日、得意先埼玉商店が倒産し、同店に対する売掛金 80 円が貸倒れとなった。なお、貸倒引当金残高が 200 円ある。

（貸倒引当金） 80 （売掛金） 80

③ 貸倒引当金の設定（差額補充法）

1. 差額補充法とは

決算で貸倒引当金を積み立てるにあたり、貸倒れの見積額と貸倒引当金残高の差額を補充する方法を、差額補充法といいます。



差額補充法では必ず、貸倒れの見積額と貸倒引当金残高とを比較します。このとき貸倒引当金残高は、新しく貸倒引当金を設定する前の金額で、前期末に設定した分の残りです。以下のように、見積額と貸倒引当金勘定の残高のいずれが大きいかによって、その処理が異なります。

(1) 見積額＞貸倒引当金残高

見積額のほうが大きいということは、それだけ貸倒引当金が不足していることを意味するので、その差額を当期の費用とするとともに、貸倒引当金に加算します。これを繰入額といいます。

$$\text{売掛金・受取手形などの期末残高} \times \text{実績率} - \text{貸倒引当金残高} = \text{貸倒引当金繰入額}$$

$\downarrow$
 (貸倒引当金繰入) ××

$\downarrow$
 (貸倒引当金) ××

設例 18-1

12月31日、決算につき、期末売掛金残高 10,000 円に対し実績法により 2%の貸倒れを見積る。なお、期末貸倒引当金残高は 120 円である。会計処理の方法は差額補充法によること。

(貸倒引当金繰入) 80

(貸倒引当金) 80

精 算 表

勘 定 科 目	試 算 表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
売掛金	10,000						10,000	
貸倒引当金		120		80				200 ^{*1}
貸倒引当金繰入			80		80 ^{*2}			

*1 貸倒見積額 10,000 円×0.02＝200 円

*2 繰入額 200 円－120 円＝80 円

(2) 見積額＜貸倒引当金残高

見積額のほうが小さいということは、それだけ貸倒引当金残高が過大であることを意味しますので、その差額分だけ貸倒引当金を減少させるとともに、収益とします。これを戻し入れといい、このとき使用する収益の勘定は貸倒引当金戻入勘定です。

設例 18-2

12月31日、決算につき、期末売掛金残高 10,000 円に対し実績法により 2%の貸倒れを見積る。なお、期末貸倒引当金残高は 250 円である。会計処理の方法は差額補充法によること。

(貸倒引当金) 50

(貸倒引当金戻入) 50

精 算 表

勘 定 科 目	試 算 表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
売掛金	10,000						10,000	
貸倒引当金		250	50					200 ^{*1}
貸倒引当金戻入				50		50 ^{*2}		

*1 貸倒見積額 10,000 円×0.02＝200 円

*2 戻入額 250 円－200 円＝50 円

2. 貸借対照表での表示

貸倒引当金は、貸借対照表において次のような控除形式で表示します。

貸 借 対 照 表	
売掛金	5,000
貸倒引当金	-150 → 4,850

前記のように、売掛金から貸し倒れると予想される金額を差し引いて回収可能な売掛金の金額を示します。

貸倒引当金のように、資産の正しい金額を計算するために設けられた勘定を評価勘定といいます。

3. 貸倒引当金の残高がある場合の貸倒れ（その2）

貸倒引当金だけでは充当できないときもあります。貸倒引当金の残高よりも貸倒金額のほうが多い場合（貸倒金額＞貸倒引当金残高）です。貸倒引当金を取り崩しても不足する場合は、その不足分を貸倒損失勘定の借方に記入し、これを費用として計上します。

仕訳例 4

6 月 3 日、得意先栃木商店が倒産し、同店に対する売掛金 250 円が貸倒れとなった。なお、貸倒引当金残高が 200 円ある。

（貸倒引当金） 200

（売 掛 金） 250

（貸 倒 損 失） 50

4. 償却債権取立益

前期以前に貸倒れとして処理してある債権を回収したときは、その回収額を償却債権取立益勘定（収益の勘定）として処理します。

仕訳例 5

3月9日、前期に貸倒れとして処理した和歌山商店に対する売掛金 300 円を、現金で回収した。

（現金） 300 （償却債権取立益） 300

練習問題

① 次の取引について仕訳しなさい。

(1) 決算にあたり、売掛金期末残高 13,000 円に対し実績率法により 2%の貸倒れを見積る。
なお、貸倒引当金の残高は 170 円である。

（ ） （ ）

(2) 決算にあたり、売掛金期末残高 20,000 円に対し実績率法により 2%の貸倒れを見積る。
なお、貸倒引当金の残高は 450 円である。

（ ） （ ）

② 次の一連の取引を仕訳しなさい。貸倒引当金残高は 1,400 円とする。

(1) 得意先愛媛商店が倒産し、売掛金 800 円が回収不能となった。

（ ） （ ）

(2) 得意先松本商店が倒産し、売掛金 1,000 円が回収不能となった。

（ ） （ ）

（ ）

(3) 得意先愛知商店が倒産し、売掛金 500 円が回収不能となった。

（ ） （ ）